

教員養成の目標を達成するための計画(認定課程: 養護教諭一種)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>本学の目的、使命を果たすために、本学建学の精神である「キリスト教(カトリック)ヒューマニズム」に基づき、1年次は教養を重視した全人教育を重視している。看護の専門職教育としては「人体の構造と機能Ⅰ」「微生物・感染症学」で医療的な基礎科目を身につけ、合わせて「対人関係論」で対人関係を重視した教育を行い、学ぶ力と人間的感性を育成することを目標とする。また、教育現場で用いる情報処理の基礎、英語の基礎もこの時期に学ぶこととなる。</p>
	後期	<p>1年次は引き続き教養に重点を置き、全人教育を重視している。看護の専門職教育としては「人体の構造と機能Ⅱ」及び「薬理学の基礎」を学び、医療教育の基礎の学習態度を身に付ける。また、教職に就くためのまず最初の段階として「教育原理」を学び教職の理念並びに教育に関する歴史及び思想を理解する。また、「教職論」では教職の意義及び教員の役割・職務内容と合わせて教育課程の意義及び編成の方法も学習する。養護に関する専門科目も履修していくことで自らの進むべき方向性を徐々に確立していくことを目標とする。併せて、健康科学において体育実技を含む学校教育における健康教育の基礎を学ぶ。</p>
2年次	前期	<p>看護活動に関する専門の授業科目を徐々に履修することで同時に養護教諭としての活動対象の基礎的理解を深める。特に人間の発達段階に注目し、「生涯発達論」と「教育・学校心理学」を同時期に学ぶことで、生徒の心身の発達及び学習の過程、それぞれの発達期における看護・養護の対象となる人々に接する際の留意点を学ぶ。また、看護・養護の基礎となる「ケアリング論」を通じて本学の建学精神の根幹であるケアの精神を学び、身に付ける事を目標とする。</p>
	後期	<p>「道徳・特別活動・総合的な学習の時間」から学校における特別活動、道徳教育等の活動に対する理解をし、「生徒指導」から学校運営や生徒の問題行動の現状を理解し、広く社会の文脈の中での教育の位置づけを考える。特に養護教諭の主な対象となる分野の「精神看護学概論」「ウィメンズ看護学概論」を学ぶことにより、学校における対象の特性を理解を深める。さらに対象に対応するカウンセリングの基礎を理解し、その実践を授業を通して演習することから、養護教諭の専門的能力を身につける。「小児期看護学演習Ⅰ」も始まることで養護教員としての専門教育を、どのように深めていくかを自ら主体的に判断し、3年次へ繋げていく。</p>
3年次	前期	<p>学校保健が地域保健の一環であることを意識させ、公衆衛生学についても衛生学と予防医学の観点からその重要性を理解する。「学校保健」「地域看護学概論」など、養護教諭の活動を地域保健の視点から理解できる能力を身につける。「養護概説」で、養護の本質と概念、学校教育で果たす養護教諭の役割、具体的な職務内容を理解する。また、教育の現場で求められる各種指導法のうち、障害を持った生徒に対する理解と実際の対応を学び、養護教育実習に備える。また、「教育方法論」で情報機器の利用法や教材の活用法を学ぶことにより、より効果の高い指導方法を身につける。自分が教員となることの意義を再度問い、責任を持って教職課程の履修を続けることを再確認させる。</p>
	後期	<p>「小児期看護学実習」を通して、学校保健や地域保健における看護の対象の理解と技術の深化に努める。それとともに、これまで学んだ養護教諭の役割と実践を基礎にして、養護教育実習に向けて養護教諭の役割と実践を教育現場で学ぶための準備を始める。</p>
4年次	前期	<p>災害看護学と救急看護学を学ぶことによって、今、教員に求められている学校安全教育への理解を深めるとともに、養護教諭として現場にて実践する「養護教育実習」を通して、教育活動・地域活動ができる実力を養成する。さらに、養護教育実習の事前指導及び実習の経験を踏まえ、効果的な指導方法や、児童生徒とのコミュニケーション技術等の現場での課題に着目した研究を行うことで教職の現場における実践的な指導ができるようになることを目的とする。</p>
	後期	<p>「教職実践演習(養護教諭)」の中で実施される教職履修カルテをもとにした教職面談を実施し、養護教諭免許にかかわる学びの軌跡を振り返り、総括することで本学科の教職課程を修了する。また、「教職実践演習」においては、教師としての専門性が一定レベルに到達しているかチェックし、教師に向けた自己の確立を目標とする。この教職実践演習により、教職課程履修者の教員資質を保証する。</p>